



つむぎだより No.44

＝ 区切り、そして
新しい展開へ ＝

とうとう12月です。今年もあと少しとなりました。

今年は仕事のみならず個人的にも区切りの1年だったように思います。

個人的では、母の一周忌を無事に済ませることができ、仕事では、コロナが一段落したので、お客様と対面でお話することが、ずいぶん増えてきました。

また、10月から新しいスタッフが入り、少しずつ慣れてきてくれているようです。

そして恒例のスタッフの誕生日会ですが、これまではスイーツでお祝していました。11月は本人のたっの希望により、『餃子』での開催となりました。(『もつ鍋』がよいと言っていた時期もありましたが…) 今後は、スイーツばかりでなく、バリエーションが増えていくかもしれません。

来年は、いろんな意味で新しい展開があるのかも。楽しみです。(川東)

★2023年12月号

1、「50人の壁」とメンタルヘルス不調者の増加

◆「50人の壁」とは

「50人の壁」とは、従業員数が50人を超えると発生する経営課題のことを指しています。マネジメントを行うために、社長のほかに複数の管理職が必要となり、人事制度も複雑化するので、管理レベルも高まります。また、従業員数が増えることで、情報共有や意思疎通が難しくなるため、組織内のコミュニケーションの質が低下する、ともされています。

この「50人の壁」と一致するように、メンタルヘルス不調者の割合が高まってくるようです。

◆メンタルヘルス不調者がいる企業は従業員数50人超で大きく増加

帝国データバンクが行った「健康経営への取り組みに対する企業の意識調査」では、過去1年間で「過重労働時間となる労働者」や「メンタルヘルスが不調となる労働者」がいるかどうかを尋ねたところ、次のような結果が出ました。

この調査では1万1,039社が有効回答していますので、わが国での一般的な傾向と考えられます。

<従業員数とメンタルヘルス不調者がいる割合(%)>

- ・5人以下 …………… 5.0%
- ・6人～20人 …………… 10.8%
- ・21人～50人 …………… 19.5%
- ・51人～100人 …………… 31.6% ★
- ・101人～300人 …………… 45.5%
- ・301人～1,000人 …………… 59.0%
- ・1,000人超 …………… 62.0%

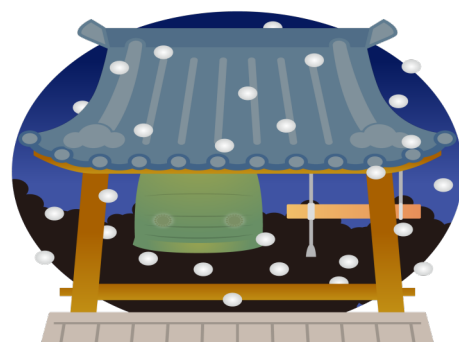
全体集計では、21.0%[5社に1社]

このように、規模が大きな会社ほど割合が高まっており、従業員数が50人を超えたところで、全体での数値(21.0%)を超えている状況がわかります。

会社が大きく成長するほど、人事労務管理の重要性も高まってきます。メンタルヘルス不調を防止するためには、定期健康診断の確実な実施、職場の喫煙対策、労働時間管理や仕事の進め方の見直しなどによる労働密度の適正化などが重要ですので、今一度、自社の状況を見直してみましょう。

【帝国データバンク「健康経営への取り組みに対する企業の意識調査」】

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p231011.pdf>



年末年始休業のお知らせ

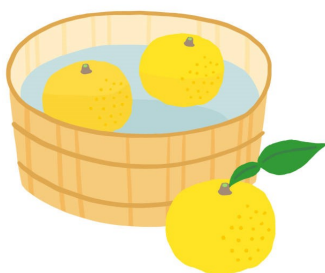
令和5年12月29日～令和6年1月3日
まで休業いたします。
ご迷惑をお掛けしますが、どうぞよろしく
お願いいたします。

＝季節のコラム＝

だんだんと日の暮れるのが早くなりました。今年の冬至は12月22日です。

冬至には柚子湯に入りますね。ユズ自体は、平安時代初期に伝わったとみられ、各地に広まり栽培されていましたが、もっぱら香辛料、薬味、調味料に使われていたようです。柚子湯は、江戸時代、ひび・あかぎれ・感冒などの予防のために、江戸の湯屋(銭湯)が始めたとされています。現代科学でも、柚子湯には血行促進効果があり、風邪の予防だけではなく、冷え性や神経痛、腰痛などを和らげます。また、皮の芳香油が湯冷めを防ぐとされています。

「冬至」を「湯治」にかけ、「柚子」を「融通が利く」(＝体が丈夫)にかけているところが、江戸っ子の洒落です。 (鹿島)



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00～18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

2、退職代行サービスの利用率は2%

エン・ジャパン株式会社が運営する総合求人サイト『エン転職』上で、ユーザーを対象に「退職代行」について実施したアンケートの結果が公表されました。

◆認知度

「退職代行」とは、労働者本人に代わって、代行業者や弁護士が会社に退職の意思を伝えるサービスです。「退職代行というサービスを知っていますか？」に、72%が「知っている」と回答しました。年代別で見ると、40代以上の認知度が64%に対し、20代は83%と、19ポイントの差がありました。

◆利用率

「退職代行サービスを利用したことがありますか？」には、93%が「ない」と回答。利用経験のない理由は「退職意向は自分で会社に言うべきだと思うから」(44%)が最多でした。一方で、「ある」は全体の2%。その一番多かった理由は「退職を言い出しにくかったから」(50%)で、特に20代の回答が目立ちました。30代、40代のトップは「すぐに退職したかったから」(30代:52%、40代以上:45%)となっていました。

◆退職代行を利用しない条件

退職代行サービスを利用したことが「ある」と回答した人に、さらに「どのような環境や条件があれば、退職代行を利用しなかったと思いますか？」と質問したところ、第1位は「上司が話しやすい」(60%)、次に「職場の人間関係がよい」(56%)、「退職意向をきちんと認めてくれる風土がある」(42%)と続きました。

◆今後、退職代行を利用するか

「今後、退職代行を利用したいですか？」との問いには、「使いたいとは思わない」の31%に対して、「状況によっては使うかもしれない」が42%となりました。

退職代行サービスによる退職は、往々に引き継ぎもできない状況での退職になりがちです。他の従業員への影響も考えると、平日頃から職場の人間関係には留意しておきたいものです。

【エン・ジャパン株式会社「7,700人に聞いた「退職代行」実態調査～「エン転職」ユーザーアンケートより】

<https://corp.en-japan.com/newsrelease/2023/34896.html>

3、今月のおすすめ本

今月は「奇跡の社会科学_現代の問題を解決しうる名著の知恵」(中野剛志/PHP新書)をご紹介します。

社会科学というのは、社会について研究する学問で、政治学、経済学、社会学、人類学、国際関係論などが含まれます。

この本は、社会科学において特に重要な古典をわかりやすく解説したものです。

「古典を読み返したところで、当時とは時代が違うのだから役に立つことはない」と思われがちですが、現代を理解するためには、これらの古典に書かれてあることを知る必要があり、さらに言えば現代で起こる様々な失敗は、古典の知恵を知らない

ために起こったものが多い、と書かれています。

確かに色々なテーマで現代の問題を古典に照らして解説しており、なるほどと思わされることが多々ありました。

ぜひ、読んでみて下さい。(川端)

